

# すかがわSDGsクイズ（中学1・2年生向け）

Q1

ゴール1 1 「住み続けられるまちづくりを」

須賀川市は阿武隈川の氾濫など水害の経験があります。災害に備えて、自分の住む地域の危険な場所や避難所を確認できるように、市が作成している地図があります。災害から命を守るために役立つこの地図を何と呼ぶでしょう？

- A : リスクチャート
- B : ハザードマップ
- C : エリアガイド



Q3

ゴール1 3 「気候変動に具体的な対策を」

須賀川市の公共施設全体で、令和5年度から6年度にかけて電力使用量が561,000kWh減りました。これは、家庭の電力使用量、約何世帯分に相当するでしょう？

- A : 約1300世帯分
- B : 約130世帯分
- C : 約13世帯分



Q5

ゴール1 2 「つくる責任 つかう責任」

令和7年4月から須賀川市では、ごみの分け方が新しくなりました。プラスチック製の容器や包装を「資源」として分けることになりましたが、分別する一番の目的は何でしょう？

- A : ごみを増やして経済を活性化するため
- B : プラスチックを燃やして花火にするため
- C : 資源をリサイクルして再利用するため



Q2

ゴール2 「きが飢餓をゼロに」

家庭で食べきれずに残ってしまった缶詰やお米、インスタント食品などを持ち寄り、福祉団体や必要としている人に届ける「フードドライブ」という活動を、須賀川市では行っています。これは食品ロスを減らすだけでなく、どんな理由でSDGs目標2「きが飢餓をゼロに」に関係しているでしょう？

- A : 食べ物を海外に輸出できるから
- B : 食べ物を観光客に販売できるから
- C : 食べ物を必要とする人に届け、栄養を補うから



Q4

ゴール8 「働きがいも経済成長も」

須賀川市では起業を目指す人が市民交流センター tetteを使って、少ない負担でお店を試しに開ける場所があります。新しい働き方や雇用を生み出し、地域経済の活性化につながるこの仕組みの名前は何でしょう？

- A : スタートストア
- B : トライアルスペース
- C : チャレンジショップ



Q6

ゴール3 「すべての人に健康と福祉を」

毎年10月に行われる「円谷幸吉メモリアルマラソン」は、須賀川出身で日本を代表するマラソン選手・円谷幸吉さんの功績をたたえる大会です。円谷さんは1964年に行われた、ある大会の男子マラソンで銅メダルを獲得しました。さて、その大会は何だったでしょう？

- A : 東京オリンピック
- B : 北京オリンピック
- C : ロンドンオリンピック

